

* 河井道を支えた「フェロシップ」

——— 学園長 廣瀬 薫

いつもご支援をいただき、心から感謝いたします。皆様のご支援は、今の時代の様々な逆風の中、恵泉女学園の使命を担う一同への大きな励みです。

『スライディング・ドア』を読むと、河井先生がいかに寄付金集めに心を砕いていたかがよく分かります。

戦争末期に「園芸専門のカレッジを取って創始する」思いを定めた時、文部省の担当者から、「いったい、資金はあるんですか」と問われ、「ございません」と答えています。「だったら、あなたが持っているのはどういったものなのです」との質問に、「希望と信念と熱意のほかは何もありません。向こう気と呼んでくださってもかまいません」と返します。その後資金集めに奔走した河井先生は、「私たちは三十万円という目標の金額を集めることができたのであった。それは奇蹟であった」と書き、それを、「イエスが五千人の群衆を養われた、あのパンの奇蹟を思い起していただきたい」と、聖書の記事に重ねて、神の御業の体験として記しています。「五千人の給食」は、人間が差し出した小さな、しかし精一杯の献げものがキリストに活用されて、初めは不可能としか思えなかった大きな必要を満たした奇蹟でした。国内外の支援者からの、大口もあったでしょうけれども、多くは小口の献金の積み重ねによって、常識的には無謀に見える程の大きな必要を満たされたのです。

戦後の短期大学設立に関して河井先生は、「恵泉はこうした莫大な財政的負担を恐れずに、日本の友人た

ちの間で大規模のキャンペーンを行っており、目標に到達すべく最大の努力をするだろう。私たちには金銀はないが、私たちの宝として卒業生を、また学生を、示すことができる。彼女たちの真摯さと勤勉さは霊的にも、物質的にも、母校のために奇蹟を起こすであろう」と書いています。

この背景にある聖書は、使徒言行録3章です。ある足の不自由な男性が、施しを求めて神殿の門のそばにいてのを見て、ペトロは「わたしには金や銀はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」(6節)と語り、その男性を立ち上がらせ、癒しへと導いたのです。

恵泉女学園が絶えず前進し続けるために、いつも大きな必要を覚えていた河井先生は、多くの支援者、共感者、協働者に支えられていました。この支えが今の「恵泉フェロシップ」につながっています。「フェロシップ」の聖書における意味は、単に「交わり」であるばかりでなく、「協働」であり、「共苦」であり、「共に神の恵みに与ること」であり、人間関係だけに終わらない「神が介在する絆」です。河井先生を支えた「フェロシップ」が、恵泉の歩みのためにいかに大きな鍵を握っていたかを思います。河井先生を支えた人たちは、犠牲と共に大きな喜びを経験していたでしょう。今恵泉フェロシップに連なる皆様に、彼らと同じ祝福がありますよう、お祈りいたします。

* 2024年度募金テーマ *

恵泉フェロシップでは、毎年度募金テーマを定めて、募金活動を行っています。

2024年度の募金テーマは、右記のとおりです。毎年度お納めいただいている会費は、恵泉フェロシップ常任委員会にて募金テーマに配分させていただいております。いずれかの募金テーマへの用途を指定したご寄付も受け付けております。振込用紙ご利用で連絡欄にその旨の記載があるご寄付は、指定寄付としてお受けしております。インターネットを利用したクレジットカードによるご寄付や、古本募金も受け付けております。

(<https://keisenjogakuen.jp/donation/>)

2024年度募金テーマ

- ①大学生涯就業力教育のために
- ②大学障がい学生支援のために
- ③大学恵泉地域言語活動研究会のために
- ④大学国際交流・英語教育プログラムのために
- ⑤大学多摩キャンパス整備のために
- ⑥中高園芸教育のために
- ⑦中高芸術活動のために
- ⑧中高国際交流プログラムのために
- ⑨中高ICT教育推進のために
- ⑩奨学金のために(中高・大学)
- ⑪学園史料室のために
- ⑫花と平和のミュージアムのために



* 2023年度活動報告 *

2023年度は、日頃よりお支えいただいております皆様、「2024年度以降の恵泉女学園大学学生募集停止」についてお知らせしなければならないという学園にとって苦渋の選択から始まりました。大変なご心配をおかけしておりますことについて、心よりお詫び申し上げます。ですが、恵泉女学園は何より在学している学生生徒に対して責任をもって教育環境を維持し、「キリスト教信仰に基づき、神と人との仕え、自然を慈しみ、世界に心を開き、平和の実現のために貢献できる女性」の育成を続けていくために努めてまいりました。

感染症対策による行動制限は解除され、宿泊プログラムや国際交流は以前の活動に戻り、恵泉デー等の行事についても2022年度よりさらに規制を緩和して多くの方をキャンパスにお迎えすることができました。学生や生徒の大きな声がキャンパスに戻ってきたことは、学園に連なる私たちにとっては非常に大きな喜びでありました。

これらの活動を支えているのは、コロナ対策として続けてまいりました換気能力の向上に伴う校舎空調設備の更新や、情報通信設備の強化等の環境整備によるところが大きいと感じております。2023年度も引き続きこのような環境整備を進めてまいりました。東京都私学財団からの補助金も受け、世田谷キャンパスでは学内ネットワーク設備を更新し、これからのICT教育に必要な環境を整えました。

多摩キャンパスでは、継続して空調設備更新、防災設備更新や電気設備更新を行うことができました。

その他、少しずつではありますが、2029年に迎える学園の100周年に向けての事業を進めております。学園百年史発刊のための準備は、できるところからではありますが具体的になってきております。また、世田谷キャンパスでの毎朝の礼拝の中心施設であり、様々な教育活動を支えているフェロシップホールの建替えも検討しております。創立100周年を超えて、さらに豊かな学園生活の拠点となるホールを熱望しておりますが、昨今の建設コストの上昇もあり、更に実施内容の検討を進めている所です。

その様な中、恵泉フェロシップを通しまして、恵泉女学園に対し多くの皆様から今までと変わらぬご支援をいただきました。長く学園をお支えいただきました元教員の方のご逝去に伴うご寄付をいただいたこともあり、恵泉フェロシップ全体としましては、1,658万円のご寄付をいただきました。心より感謝申し上げます。お預かりしました寄付金につきましては、以下「2023年度寄付金配分状況」に記載しましたとおり、学生・生徒の学びを支えるため、またこれからの教育研究活動充実のための事業に活用させていただきます。今後の活動にも皆様のご力添えを必要としておりますので、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



* 2023年度寄付金配分状況 *

奨学金のために	100万円	(大学 恵泉会他からの使途指定分)
奨学金のために	100万円	(中高 恵泉会他からの使途指定分)
生涯就業力教育のために	150万円	(大学)
国際交流・英語教育プログラムのために	50万円	(大学)
恵泉地域言語活動研究会のために	20万円	(大学 東京Ⅱゾンタクラブからの使途指定)
障がい学生支援のために	25万円	(大学)
多摩学生環境整備のために	200万円	(恵泉会からの使途指定 他)
蓼科ガーデンのために	7.3万円	(指定寄付)
中高園芸教育のために	50万円	
中高芸術活動のために	100万円	(課外活動補助)
国際交流プログラムのために	50万円	(中高)
ICT教育推進のために	200万円	(中高)
中高教育活動のために	230.5万円	(中高)
学園史料室のために	100万円	
花と平和のミュージアムのために	100万円	
合 計	1,482.8万円	

2023年度の恵泉フェロシップの特定資産は、恵泉フェロシップ対象事業として上記の1,482.8万円の実施に伴い、2023年度にいただいたご寄付等1,658万円を用い、特定資産へ175万円を組み入れました。この結果、恵泉フェロシップ特定資産の残高は右のとおりとなりました。

《恵泉フェロシップ特定資産残高》

2022年度残高	71,592,225円
2023年度特定資産へ組入	1,754,519円
2023年度残高	73,346,744円



大学の2023年度を振り返り、2024年度に向けて

2023年度は大学開学35周年であると同時に、学生募集停止を決定・公表して始まった年度でございました。恵泉フェロシップ会員の皆様にも、例年以上の応援のメッセージと共にご支援いただいておりますこと、心より感謝申し上げます。

昨年度の学生の生活・学修状況は、学生募集停止決定時の想定よりも順調に進んでおりますことを、まずご報告申し上げます。多くの問題や課題が学生に影響することを想定しておりましたが、学生は落ち着いて日々の生活に励んでおります。振り返りますと、2023年3月末に学生募集停止決定と今後についての保証人対象説明会を4回行いました。閉学までに懸念される問題点について、口頭と文書で全て回答いたしました。その後、保証人をはじめとするステイクホルダーの方々からあたたかく見守られ、学生と共に日々の教育活動に専念することができておりますことは本当に感謝でございます。

今春3月に卒業した学生の就職状況は、内定率98.2%（昨年98.7%）、実就職率81.4%（昨年78.2%）と昨年以上の実績で、企業の方々からも変わらぬ評価をいただいております。今後も学生が生涯就業力を磨いて成長し、卒業後社会で活躍していくことができますように力を尽くしてまいります。

前号で学長からご報告させていただきましたように、昨年度の恵泉フェロシップからのお支えも十分に活用させていただきました。おかげさまで、充実した年になりましたことに改めまして御礼申し上げます。今年度も同様にお支えを活用させていただきます。

また、昨年度立ち上げました「恵泉 TAMA サポーターズ」へも40名の方が登録してくださいました。大学・大学院の卒業生だけでなく、中高・短大の卒業生もいらっしゃることは嬉しく有難いことでございます。引き続きご応募をお待ちしております。そして、今年度も「リユニオン in 多摩」として短大・大学・大学院の卒業生の皆様の複数学年で恵泉祭にご招待させていただきます。恵泉祭へは招待卒業生に限らず、是非、多摩キャンパスに足をお運びくだされば幸いです。

現在の2年生が卒業するまで残り3年となりました。学生が最後まで安全に安心して、活気ある生活を送り卒業できますように日々歩みを進めてまいります。今年度も学生、保証人、卒業生、恵泉フェロシップ会員の皆様のそれぞれの活動が深くつながりますことを祈願しております。引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大学事務局長 籠野 英樹



中高の2024年度事業計画について

会員の皆様には、日ごろからのご支援に心より感謝申し上げます。

中高では207名の新入生を迎え、2024年度をスタートさせることができました。遠足、スポーツデーなどの行事も終え、この夏の学年宿泊行事やクラブ合宿などに向けて準備が進められているところです。

中高では、「聖書・国際・園芸」を生徒の知性・感性・社会性を育てる恵泉教育の特色と位置付けて教育活動を展開しております。その中で、教員・生徒ともに本来の学びの目的を常に確認し、生徒が自己実現を図るために学びたいことを学べる分野への進路実現を強力に支援しています。特にSTEAM (Science・Technology・Engineering・Art・Mathematics) への関心を促すため、今年度も色々な大学との高大連携プログラム等を実施し、興味の幅を広げる機会を提供していきます。

ご支援をいただいている国際交流プログラムにつきましては、留学制度として、長期・中期・短期のプログラムに加え、シンガポール訪問研修を外部委託も併用して実施しています。2024年度には短期留学先として新たにカナダのキリスト教学校とのプログラムを開始します。その他、夏休みには日本に在留している留学生をリーダーとするグローバルスタディーズプログラムを実施しています。参加した生徒達は英語漬けの日々の中で良い刺激を受けているようです。留学生は4月からYFUを通じてドイツからの

1名を受け入れ、高校2年生のクラスで学校生活を送っています。また2学期以降AFSを通じてアメリカから1名を受け入れる予定です。様々な交流が、多様な文化・多様な価値観の中で互いに認め合い尊重し合うことを体得する機会となるよう願っています。

2023年度、世田谷キャンパスのネットワーク環境更新工事を行いました。2024年度は教職員・生徒用のPC更新を実施させていただきます。さらに文部科学省のDXハイスクール事業を利用してICT教育環境整備を行い、文理横断的・探究的学びを強化していきます。

フェロシップホール建て替えについては、4月に生徒、保護者、同窓生、教職員などが見守る中、公募型公開プロポーザルを行い、基本設計業者として妹島和世建築設計事務所を選定いたしました。今後基本設計により明らかとなる新しいフェロシップホールのデザイン、機能、建築費用などから事業の実施を総合的に検討していくこととなります。この事業に関しましては皆様からのより一層のお力添えをよろしく願いいたします。

少子化や教員の働き方改革など向き合っていかなければならない課題は多くありますが、社会の変化に対応しつつ、より良い教育を継続していくことができますよう、今後ともご支援をお願い申し上げます。

中高事務局長 滝島 陽子